

令和
2019年 ゆいレール、てだこ浦西駅まで延伸

令和

2018年 那覇バスターミナル開業
2003年 ゆいレールが那覇空港駅―首里駅間で開通

平成

1998年 沖縄自動車道全線開通
1978年 ナナサンマル実施
1951年 東陽バス(株)設立
1950年 琉球バス(株)創業
1950年 公営バスから民営移管し、沖縄バス(株)設立
1947年 公営バス発足
1935年 首里市営バス設立

昭和

1923年 沖縄県営鉄道、那覇―糸満線開通
1922年 沖縄県営鉄道、那覇―嘉手納線開通
1917年 糸満馬車軌道(株)設立
1914年 沖縄馬車軌道(株)設立
1914年 沖縄県営鉄道、那覇―与那原線開通
1914年 沖縄電気軌道(株)が那覇―首里間で路面電車を運行開始

大正

1886年 沖縄で初めて県知事専用車として人力車を輸入
1902年 沖縄で初めての客馬車が登場

明治

沖縄の交通年表

第12回 交通編



移動時間の削減から 社会経済の発展へ

明治の頃まで、陸上では馬車や人力車が、洋上では山原船が人々の交通を担っていました。大正期になると、1914年には、軌道交通の路面電車が那覇―首里間で開通。100年以上前の沖縄の風景の中には、チリンと電鈴を響かせて走る路面電車の姿がありました。

同じく、1914年には軽便鉄道、いわゆる「ケービン」が那覇―与那原間で開通。後に、嘉手納や糸満へも延伸されました。ケービンは人の移動や物資の輸送を担い、製糖を中心とする沖縄の産業を支えました。また、

産業の歴史をひもとく年代記 沖縄産業 クロニクル

県民の暮らしに密接に関わる
さまざまな産業はどう始まった？
その変遷と展望を紹介します。

監修・山内昌斗(専修大学経営学部教授)



“ケービン”の愛称で
親しまれた
軽便鉄道

明治の頃まで
馬車も活躍



戦後、さまざまなものの運搬に使われていた馬車(那覇市歴史博物館提供)



戦前の軽便鉄道の車両(那覇市歴史博物館提供)



軽便鉄道東風平駅の様子(戦前/那覇市歴史博物館提供)

暮らしも産業も
軽便鉄道が
支えていた!

道路の整備も進み、1915年には、那覇―今帰仁間で国頭街道が開通しました。やがてフォード社の「モデルT」を改造した定員8名の乗合バスが、那覇―名護間で運行を開始。徒歩で2日かかった道のりは3時間程度に短縮されましたが、運賃が高く乗客は限られました。昭和期には、ボンネットバスが導入され、乗客収容数が増加。バスは高速・低コスト・集団輸送を実現し、庶民の足となりました。

戦後は、米軍政府が道路整備に力を入れたことで、沖縄でも自動車普及しましたが、交通渋滞が社会問題になります。解決手段の一つとして開通したのが「ゆいレール」で、軌道交通の復活となりました。那覇空港駅―てだこ浦西駅間を結ぶ路線は通勤・通学のほか、観光客にも利用されています。交通はビジネス機会の創出や教育機会の提供など、人々の知的生産活動や社会的価値の創造を支える役割を担い、沖縄を新たな社会へ前進させる原動力となっています。



ゆいレール旭橋駅に直結する那覇バスターミナルが2018年10月に開業



2003年に開業し、今や県民の足として定着した沖縄都市モノレール「ゆいレール」



戦前に運行していた首里市営バス(那覇市歴史博物館提供)

注目トピックス



3 朝夕の通勤だけでなく、慢性的に交通渋滞が起こる道路も

年間損失額は1,455億円!※ 沖縄の交通渋滞

自家用車が主な交通手段である沖縄では、渋滞損失時間が全国でもワーストレベル。沖縄総合事務局によると、年間損失額は1,455億円にも及ぶと試算されています。これは県民一人当たりに換算すると年間約9.8万円に相当。交通渋滞は解決すべき沖縄の社会課題となっています。

※令和5年時点



2 右側通行の国道58号(那覇市歴史博物館提供)

歴史的な交通変更事業 「ナナサンマル」

沖縄の交通史を語る上で忘れてはならないものが、1978年7月30日に行われた「ナナサンマル」。自動車の通行が右側から左側へと変更されました。これに伴い、道路の改良や標識の設置、交通ルール教育などが行われ、沖縄県の本土復帰を象徴する一つの出来事となりました。



1 路面電車が走っている様子(戦前)(那覇市歴史博物館提供)

那覇と首里を結ぶ交通 チンチン電車

1914年、那覇―首里間で路面電車が開業しました。会社の名前は沖縄電気軌道。濃いあずき色に塗られた木製の車体は「タンス」が走っているように見えたようです。開業当初は新しいものの登場への好奇心から乗客が詰めかけたものの、次第に乗客が減少。1933年廃業となりました。

MaaS(マース: Mobility as a Service)による交通の進化

鉄道、バス、タクシー、船舶など、これまで事業者ごとに分かれていた交通サービスをアプリ上で一つのサービスとして検索、予約、決済できる仕組みがMaaS。県でも観光型MaaSの実証実験が行われています。将来的に、自動運転の超小型車や有人ドローンなど、新たな移動サービスが加わることで、交通はもっと快適・便利になるでしょう。



琉球料理が味わえる店

県が認証するお店で琉球料理を味わいませんか?



琉球料理が味わえる店

県が認証するお店で琉球料理を味わいませんか?

